

自然保育推進事業 活動報告書

1. 団体名

学校法人奥山学園 幼保連携型認定こども園 桜ヶ丘幼稚園

2. 令和5年度活動概要

(1) 環境構成に関すること

今年度も、自然保育リーダーを2名専任し、リーダーを中心とした自然保育に取り組んだ。去年のリーダー1名制ではなく、2名体制で新たに園の自然保育を推進していった。

具体的な環境構成としては、昨年度からの目標としていた「園から桜ヶ丘の団地に出る山道が通りにくくなっているため、整備をして、道が選べるようにする」「山の奥を開拓していないので、年長児から少しずつ登っていき、通れる道を増やす」の2点に取り組んだ。園の畑から山道に入り、分岐点を作り、「桜ヶ丘」「松ヶ丘」と書いてある看板を設置した。「桜ヶ丘」の方は、倒木して通れなかった道を通れるようにし、桜ヶ丘団地に出てくる道を整備した。園の近くに出てくる道なので、歩きやすいお散歩コースができた。「松ヶ丘」の方は、沢を越えて山を登って行く道を作った。沢を越える板を設置し、小さい橋を作った。松ヶ丘に続く道は傾斜が大きい為、最初は登るのに苦労していた子ども達も、回数を重ねるごとに、年少でも登れる力が付いてきた。

夏の終わりに、山道の入り口にスズメバチの巣ができてしまい、山での活動ができなくなってしまった。土の中の巣だったため駆除もできず、いなくなるまで近づかないようにした。定期的に、職員で山の点検を行い、子どもの通る道に蜂の巣ができていないか確認する必要があることを学んだ。

昨年度、畑を拡張し、毎年苦戦していたさつま芋が、今年度は沢山収穫することができた。日当たりが良い為、育てるものや時期を考えながら、有効活用していきたい。夏野菜で「とうもろこし」と「すいか」を育てた。ネットを張って鳥対策をしたが、動物に入られ全滅してしまった。せっかく育てていた物が収穫できなかった事も1つの経験と捉え、子ども達と別の対策を講じていこうと思う。来年度育てる場合は、違う対策を考える必要がある。

乳児の自然保育の活動内容については、乳児の担任や主任と話し合っ決めてるようにした。発達によりできる事とできない事があるため、やりたい内容を伝え、できる範囲で参加し、クラスで流行っていることを取り入れて活動内容を決めた。乳児は、幼児に比べできることは少ないが、興味があることを追求した自然保育を行うことができた。

(2) 活動例

【1学期】

春見つけ

年少は春見つけカードを製作し、イラストと同じ植物を見つけながら園内散歩をした。

年中と年長は園外に行き、たけのこを見つけたり、団地に咲いている花を見つけに行った。



夏野菜／夏の花

幼児で夏野菜を育てた。年長児はとうもろこし、きゅうり、すいか、年中児は枝豆、落花生、年少児はトマトを育てた。夏野菜の苗を畑に植えて育てた。収穫は育てた学年以外も参加し、乳児も体験することができた。年中の枝豆は、半分枝豆として収穫し、半分は茶色くなるまで残しておき大豆になる様子を観察した。枝豆が大豆になることを学ぶことができ、学びながら育てることができた。

花は、年長児はひまわり、年中児は朝顔、年少児はマリーゴールドの種植え体験をした。花が咲いた後は種を取り、クラスで会議をし、種をどうするのか決めた。年中は、この種から花が咲くのかももう1度育て続けたいという意見が出て、年長になってからも育てることにした。



雨の日の自然保育

長靴とカッパを着て雨の日に園内散歩をした。雫を観察したり、容器に雨水を一生懸命溜めて遊ぶ姿が見られ、晴れの日とは違う遊びをすることができた。



かるが浜（園外保育）

今年度初めて「かるが浜」に園外保育に行った。砂浜や波打ち際の水の感触を楽しむ姿が見られた。園の砂場と違い、貝殻集めをしたり、思いきり体を動かして遊ぶことができた。



梅シロップ作り

幼稚園にできている梅を年長児が見つかり、「梅シロップ作ったことある！」という話から、幼稚園でも梅シロップ作りに挑戦してみることにした。年長児で作って、年少児・年中児にもおすそ分けする程の沢山の梅シロップが完成した。子どもの発見から保育展開する事で、主体性を育むこともできた。



【2学期】

冬野菜

夏野菜を育てた経験を生かして、冬野菜はどんなものがあるのか年長児と年中児で調べて、子どもたちが育ててみたい野菜を決めた。年長児が、年中児にひらがなを教えてあげたり、自分の経験を生かして、去年育てた野菜を教えてあげたりし、異年齢での関わりを持つこともできた。年長児は白菜、ブロッコリー、年中児はキャベツ、大根、年少児は大根、スナップエンドウを育てた。全園児で玉ねぎも育てた。収穫した後に、どうやって食べたいか話し合っていて決めて、調理して食べた。



柿取り体験

園内にある柿の木に、秋になると沢山の柿が実るので、柿取り体験をしている。低い所は小さい子が取り、年長児は保育者と脚立に登り、高い場所の柿を自分で収穫する体験をする。収穫した柿を布で磨くと「ピカピカになった!」と驚いていた。「いらっしゃいませ」とそこからお店屋さんごっこに発展した。



稲刈り見学

園児の祖父の田んぼに稲刈りの見学に行かせてもらった。1人ずつ鎌で稲刈り体験をした。機械で稲刈りをする様子も見学させてもらい、お米のでき方を学ぶことができた。炊き立てのおにぎりを田んぼで食べさせてもらい、稲刈り後の田んぼで遊ばせてもらった。貴重な食育体験となったので、今後も継続していきたいと思う。



さつまい収穫

春に植えたさつまいの苗が成長し10月に収穫をした。収穫したさつまいを、年長児が桶の中に入れて洗い、11月に「焼き芋パーティー」をして食べた。自分達が収穫したさつまいを食べることを楽しみにし、普段の給食では苦手な食べられない子も、自分で作った焼き芋は美味しそうに頬張って食べていた。野菜の成長を学び、それを調理して食べることで食育にも繋がった。また、芋のツルを使って綱引きや縄跳びをして遊んだり、給食に芋のツルを出してもらい、食べられることも学んだ。



山登り

年中児が開拓した道を年少児に教える機会を設けた。年下の子を気遣いながら声かけをしたり、手を繋ぐ等の、異年齢での関わりが見られた。また、「こっちの道行ったことある？」と教える方も誇らしげに案内したり、教えられる方もワクワクしながら山探検をする姿が見られた。

山に行く坂道にどんぐりを転がして遊べる場所を設置した。乳児でも遊ぶことができ、子ども達は何回も上から転がして遊ぶ姿が見られた。



虫探し

カマキリやカエルを掴まえて、飼育することにした。何を食べるのか調べたり、死んでしまった時は、クラスでどうするのかを会議した。毎日お世話をして、育てることの難しさや責任を学んだ。



チューリップ

年中児でチューリップを植えた。「来年の入園式頃に咲くお花何があるかな？」と年中児で会議をし、チューリップを植えることにした。去年植えていた為、植え方を覚えていた。「赤い花が咲いて欲しいな」と、花が咲くのを楽しみにしていた。



自然保育月間

各学年で取り組みたいことを決めた。年長児は山道の看板作り、年中児は山道の開拓、年少児はテント作りに取り組んだ。各学年で話し合いながら取り組むことができ、1つのことをやり込むことができた。



しめ縄作り

稲刈りの稲をもらい、年長児でしめ縄作りをした。職員にしめ縄の作り方を教えてもらい、日本の伝統文化を学ぶことができた。



【3学期】

とんど祭り

しめ縄やお正月の壁面をとんどで焼き、みんなで無病息災を願った。なぜとんどをするのかを学び、初めて体験する子にとっても、貴重な体験になったと思う。



感謝祭

1年間、桜ヶ丘幼稚園の自然保育に携わって頂いた方を招待して、感謝祭を行った。芋ご飯と豚汁を調理し、感謝の気持ちを伝える機会を設けた。今年度は初の試みの為、時間配分や内容に試行錯誤したが、来園された方々からは好評を頂いた。



じゃがいも

年中児と年少児で種芋を植えた。年齢ごとにできることを役割分担をして行った。年中児が種芋を切り、年少児が灰を付けて、2学年で畑に植えた。



(3) 自然体験活動の実施にあたり工夫した点

今年度、新しく入った先生にも、自園の自然保育について知ってもらうため、職員で幼稚園裏の山道を歩いたり、畑の土作りをして、職員間でも自然保育を楽しむことができた。

昨年度の課題として、活動の多い時期と少ない時期の差があったことについては、今年度から、自然保育リーダーが年間計画を立て、それに基づき毎月の自然保育の活動内容を職員会議で共有するようにした。月の活動内容を決めておくことで、コンスタントに自然保育に触れる機会を作れた。また、自然保育リーダーが活動内容を提示しておくことで、他の先生の活動内容が明確になった。また準備も自然保育リーダーだけがやるのではなく、他の先生も巻き込んですることで、用具がどこにあるのか、肥料は何を使っているのか知ってもらうことができた。

今年度初めて雨の日の自然保育に取り組んだ。長靴とカッパを着て園庭に行き、雨水を集めたり、植物から雫が落ちてくるのを観察したりし、雨ならではの情景を間近で見ることができた。来年度も続けていきたい。

そして、10月11日には自然保育月間と題して、自然保育に特化した期間を設定した。芋の収穫から焼き芋をしたり、今年初めて稲刈りの見学にも行かせてもらった。自然保育月間の最後には各学年で話し合い、自分達がしてみたいことを取り組んだ。山道に看板を作ったり、山道がどこまで続いているのか開拓したりし、知り得た知識を他の学年と共有することで、縦割り保育にも繋がった。

今年度初めて行った感謝祭は、来年度からは、「とんど祭り」と「感謝祭」を一緒に行い、園で育てたもので何か作って食べたりできないかと模索している。この様に、例年、同じ内容ではなく、子ども達の思いや発見に寄り添った自然保育体験を今後も行っていきたい。